

第3回男性の暮らし方・意識の変革に関する専門調査会

文部科学省説明資料



平成28年12月9日(金)



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

土曜学習応援団について

～企業・団体等の出前授業により特色・魅力ある教育活動を推進～

文部科学省では、平成26年4月より子供の豊かな学びを支えるために、多様な企業・団体・大学等に「土曜学習応援団」に御賛同(御参画)いただき、土曜日、夏休み、冬休み、平日の授業や放課後等の教育活動に出前授業の講師や施設見学の受入等により参加していただくことで特色・魅力のある教育活動を推進。(平成28年10月段階で708団体が賛同)



土曜学習応援団に賛同した
様々な企業・団体・大学等

教育活動への協力依頼

学校・教育委員会
地域の教育団体等

* 幼稚園・保育園～高校までを対象、他に、親子での参加も可能
* 土曜日や夏休み、冬休み、平日の授業や放課後等を対象

ホームページ等による
応援団の情報提供



土曜学習応援団 ホームページ
URL: <http://doyo2.mext.go.jp>

* 賛同企業等の一覧や各企業等の取組を紹介

☀️ 土曜学習応援団が、出前授業等の講師として参加している事例 ☀️



化学の不思議を伝える
「化学実験教室」



災害に備える力を養う
「防災教室」



地球温暖化を考える
燃料電池を使用した
「発電実験教室」

<企業・経済団体等>

花王、ダスキン、日本電信電話、パナソニック、三菱電機、日本電気、富士通、AT&TジャパンLLC、パナソニック、加計計算機、バンダイ、キョーマン、ゼンショー、東洋ライ、伊藤園、キリン、サントリーホールディングス、森永乳業、カゴ、日清製粉グループ本社、大和屋、八木長本店、和光、広島魚市場、マルカイ、仙台水産、中部水産、丸幸水産、長井水産、田脇水産、竹徳かまぼこ、くまだ、一正蒲鉾、ショクン、丸越、第一電機測器、三菱商事、三井物産、日本郵船、博報堂、りそなホールディングス、三井住友銀行、日本政策投資銀行、日本政策金融公庫、全国の信用金庫37行、野村ホールディングス、SMBC日興証券、水戸証券、楽天証券、損保ジャパン日本興亜ホールディングス、東京海上日動、アフラック、第一生命、日本生命保険、第一成和事務所、東京海上日動リスクコンサルティング、ほけんの窓口グループ、SMBCコンシューマーファイナンス、MACARON、アイズ、総合警備保障、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、日本航空、全日本空輸、JFEホールディングス、日産自動車、トヨタ自動車、カワサキ重工業、ホンダカーズ南札幌、ホンダ四輪販売北海道、釧路トヨタ自動車、トヨタカーズ栃木、ホンダカーズ栃木、ホンダカーズ埼玉、トヨタカーズ神奈川、長野野田販売、ホンダ自販分カ、愛知日野自動車、和信リース、ホンダ北大阪、広島マルパティエム、東京電力、中部電力、日本原燃、東京ガス、三井化学、トクマ、積水化学工業、ツムラ、メルクス・ジャパン、テイクポン、出光興産、日本マイクロソフト、KDDI、NTTドコモ、楽天、グリー、ディー・エヌ・エー、読売新聞社、朝日新聞社、産業経済新聞社、中日新聞社、毎日新聞社、TBS、ワナインターテイメントジャパン、FOXインターナショナル・チャンネルズ、Fire Works、スタバ地図、阪急阪神インフォメーション、DHLジャパン、凸版印刷、Lifebook、コトブキ学館、日本創芸教育、東京書籍、旺文社、アイコム、林ドットデザイン、ケニス、教育と探求社、原印刷、ILH、ファカルティ、クハローチングジャパン、新潟シティ法律事務所、ビクトリアックス・ジャパン、NTTデータ、情報技術開発、テックファーム、CA Tech Kids、味ネット科学教育、アイックス・レッジ、アート&フリーダム、マルチコミュニケーションズ、パソナグループ、キャリアリンク、トワイ・リサーチ・インSTITUTE、オシロイ、日本赤十字社、本州四国連絡高速道路東京事務所、鹿島建設、ミサホーム、野村不動産ホールディングス、安藤・間、グリーン土地、日比谷アエス、川島鈴鹿建築計画、日本総合住生活、国土地図、和光設計コンサルティング、正建、新潟フーズ工業、五十嵐建設、田中設備、とみや商会、フォーバル、ソフィアコミュニケーションズ、カントリーレクシシステムズ、フランスアパロッド、菅公学生服、東京ワール、ワールドホールディングス、クリエイティブ・エコー、日本ヴォーグ社、ヴォーグ学園、トホ、ルシアン、ブティック社、LIXILビバ、ぴあ、チームスタイル、ジャパン・アーツ、ドリム・幼少・小児企画、東京演劇集団 風、トリック・キッズ、ホラシアターこんにやく座、演劇集団 円、劇団飛行船、東電リビングワーク、日比谷花壇、ショップ&カシノ花・花、全国学習塾協会、全国学習塾協同組合、福岡学習塾連盟、神田進学センター、津ノ國屋、堀江ゼミナル、花乃井ゼミナル、育英システム、大阪栄光学園、理数学館、青山学園、パワーゼミ西本塾、賢人本気塾、ジェイ教育システムズ、メイクエイステーション、

日本経済団体連合会、日本商工会議所、新経済連盟、日本貿易会、全国銀行協会、全国信用金庫協会、日本証券業協会、日本損害保険協会、電気事業連合会、FOOD ACTION NIPPON推進本部、ECCグループ生活協同組合、大阪いずみ市民生活協同組合、みやぎ生協、日本化学工業協会、塩ビ工業・環境協会、プラスチック循環利用協会、大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、全国漁青連、全国漁協女性部連絡協議会、JF兵庫漁連 SEAT-CLUB、水産物改善協会、魚津漁業協同組合、新潟県蒲鉾組合、全大阪魚蛋白事業協同組合、気仙沼の魚を学校給食に普及させる会、三重県海水養魚協議会、輪島・海美味(うみ)工房、日本財団、日本靴協会の会、日本アパレル・ファッション産業協会、日本ロード協会、日本自動車連盟、全日本トラック協会、全国川や・湖沼連合会、日本物流団体連合会

<教育・文化・各種団体等>

指定都市教育委員・教育長協議会、全国連合退職校長会、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会、日本PTA全国協議会、全国高等学校PTA連合会、全国国立大学附属学校PTA連合会、日本PCA教育振興会、NPOおやじ日本、礪川おやじの会、全国特別支援教育推進連盟、日本青年会議所、つくば青年会議所、土浦青年会議所、相模原青年会議所、長岡青年会議所、高岡青年会議所、豊田青年会議所、都城青年会議所、ホーイカ外日本連盟、全国子ども会連合会、修養団、育てる会、ルニセンター、遊心、社会通信教育協会、日本通信教育振興協会、全国社会教育委員連合、全国公民館連合会、日本図書館協会、全国図書教材協議会、全国の図書教材協会50団体、教育文化センター、図書館振興財団、教科書協会、日野社会教育センター、高度映像情報センター、国立青少年教育振興機構、国立利根川記念青少年総合センター、全国の青年の家27施設、体験の風をおこそう運動推進委員会、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会、NPO自然体験活動推進協議会、日本青年館、鹿児島県青年会館、沖縄県青年会館、日本青年団協議会、鹿児島県青少年団協議会、青少年交友協会、日本YMCA同盟、日本ユースフル協会、日本キャンプ協会、B&G財団、子ども未来塾、日本青年国際交流機構、青少年国際交流推進センター、日本シェアリングネイチャー協会、JICA地球ひろば、JICA横浜 海外移住資料館、協力隊を育てる会、ジェームズ・ダイソン財団、ディレクトフォー、リモートセンシング技術センター、情報サービス産業協会、消費者関連専門家会議、全国消費生活相談員協会、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会、生命保険文化センター、簡易保険加入者協会、製品評価技術基盤機構、東京都金融広報委員会、金融学習協会、ファインショナルアカデミー、EPL-ウーマン、NPO日本ファインショナル・プランナーズ協会、日本ファントレディング協会、信託協会、NPO全国検定振興機構、日本数学検定協会、日本英語検定協会、NPO日本語検定委員会、NPO日本ニュース時事能力検定協会、画像情報教育振興協会、

(教育・文化・各種団体等の続き)

日本パッチワーク協会、子どもみらい教研フォーラム、NPO子育て未来研究所、教育コミュニケーション協会、日本ゆめ教育協会、職業教育・キャリア教育財団、日本能率協会、公益資本主義推進協議会、志教育プロジェクト、共好の会、ジェニマーズ協会、ライフデザイン教育研究会、マナーズプロジェクト、Lady Up Manner、しつもん財団、家訓ニスト協会、日本芸術文化振興会、日本博物館協会、国立科学博物館、東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センター、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、日本きもの文化美術館、昭和館、日本レクリエーション協会、日本オーストラリアフットボール協会、日本ドッジボール協会、日本フォークダンス連盟、全日本ダンス協会連合会、HIDALI、日本ダンス協会、日本ドッジビー協会、マリンスポーツ財団、日本棋院、日本将棋連盟、日本女子プロ将棋協会、日本舞踊協会、草月会、落語芸術協会、落語協会、日本和紙ちぎり絵協会、古典学習陶冶会、ジェイク音楽文化振興会、全日本ピアノ指導者協会、日本プロゴルフ協会、日本ゴルフ場経営者協会、日本プロゴルフ協会、GMG八王子ゴルフ場、長瀬カントリークラブ、鴻巣カントリークラブ、鴻巣ジャンボゴルフセンター、武士道剣会、豊前剣道養心館、日本キボールスポーツ連盟、日本薬剤師会、秋田県薬剤師会、福島県薬剤師会、岡山県薬剤師会、日本気象予報士会、日本消防協会、日本防火・防災協会、全麵協、キチンの科学プロジェクト、愛知県漬物協会、日本船主協会、日本船長協会、日本海事センター、日本内航海運組合総連合会、全国海運組合連合会、日本外航客船協会、舟艇協会、北海道内航船員対策連絡協議会、東北内航船員対策連絡協議会、関東地方船員対策協議会、中部地方船員対策連絡協議会、近畿内航船員対策協議会、神戸地区内航船員確保対策協議会、中国地区内航船員対策協議会、四国地方船員対策連絡協議会、九州地区船員対策連絡協議会、日本造船工業会、日本中小型造船工業会、海と渚環境美化・油濁対策機構、日本鯨類研究所、日本捕鯨協会、日本森林インストラクター協会、森林インストラクター東京会、日本手芸普及協会、未来キャンパス、日本自動車整備振興会連合会、日本自動車車体整備協同組合連合会、日本自動車販売協会連合会、都道府県等自動車整備振興会10団体、日本建設業連合会、全国建設業協会、建設産業専門団体連合会、建設業振興基金、都市再生機構、日本建設産業職員労働組合協議会、住まいづくりセンター、みやぎ建設総合センター、愛知県建設業協会、兵庫県建設業協会、関西鉄筋工業協同組合、日本空調衛生工事業協会、全国測量設計業協会連合会、日本測量協会、日本地図センター、NPO伊能社中、地域活性化センター、みなとむすぶ地域活性化コミュニティ協会、世羅町観光協会、石垣島観光、日本環境改善協会、NPO教育支援協会、NPO教育支援協会東京西、全国放課後イングリッシュ、放課後NPOアフタースクール、NPOキッズドア、NPO全国生涯学習まちづくり協会、NPO芸術資源開発機構、NPO情熱の赤いバラ協会、NPO日本マナー・プロトコル協会、NPOアイデアアツリヒラキ、NPOまなびのたねネットワーク、NPO青少年科学技術振興会、NPO日本こどものための委員会、NPOアネット、NPOグリーンバート、NPO伊豆自然学校、よみたん自然学校、NPO全国ラジオ体操連盟、NPOパトリキヤン、NPOアレイブサークル運営委員会、経営支援NPOクラブ、NPO日本子守唄協会、NPO日本スポーツボランティアネットワーク、NPOボランティアインフォ、NPO Ubdobe、未来をつくるkaigoカ、山口県介護福祉士養成施設協会、NPO日本の平和と安全基盤を支える会、NPO対話の会、食育NPO「おむすび」、NPOまちづくり教育協働企画ヒト、NPO日本交流分析協会、アール、日本学生社会人ネットワーク、EDUPEDIA、e-ネットキャラバン、夢★らくぞプロジェクト、いっぽ どうぶつしょうぎを育てる会、危険学プロジェクトグループ 8、電気理科クラブ、感謝の心プロジェクト連絡協議会、駄菓子総合研究所、Everybody HEROES PROJECT、1-ス・フォー・ヒューマンライヴ インターナショナル、1-ス・フォー・ヒューマン・ライヴ・ジャパン

<大学・研究所・国立機関等>

国立大学協会、公立大学協会、日本私立大学団体連合会、国立高等専門学校機構、全国の高等専門学校51校、全国専修学校各種学校総連合会、全国自動車短期大学協会、NPO全国美術デザイン教育振興会、宮城教育大学 環境教育実践研究センター、筑波大学、東京大学生産技術研究所、東京学芸大学、東京藝術大学社会連携センター、富山大学地域連携推進機構生涯学習部門、兵庫教育大学、和歌山大学、鳥取大学、香川大学 清國研究室、高知大学、熊本大学教育学部、産業技術大学院大学、高知工科大学、石川県立大学 生物資源環境学部食品科学科分子生物学研究室、石川県立大学 生物資源工学研究所DNA利用技術教育センター、北里大学 一般教育部自然科学教育センター-化学単位、東京理科大学生涯学習センター、東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター-基盤研究施設(分子細胞生物学)、川村学園女子大学、香川栄養学園女子栄養大学生涯学習センター、八洲学園大学、事業構想大学院大学、東京都立産業技術高等専門学校、岡山県専修学校各種学校振興会、文化服装学院、二葉ファッションアカデミー、中国デザイン専門学校、新宿学園新宿調理師専門学校、高エネルギー加速器研究機構、核融合科学研究所、生理学研究所、国文学研究資料館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター、国立民族学博物館、国立国際医療研究センター、国立印刷局、造幣局、酒類総合研究所、計測自動制御学会、日本学生支援機構、応用物理学会、自衛隊 東京地方協力本部 港出張所、同本部 大田出張所、経済産業省 商務流通保安グループ 製品安全課、総務省行政評価局・全国行政相談委員連合協議会、九州海事産業次世代人材育成推進協議会

岐阜市立島中学校キャリアスクール

- 日時:平成26年11月8日(土) 総合的な学習の時間
- 対象:岐阜市立島中学校1～3年生の全校生徒(約700人)
- 趣旨:地域・社会の教育力を生かし、様々な職業の理解を深めるとともに、講師の生き方や会社の志を学ぶことを通して、自分の将来を考え、主体的に自分の生き方を見つめる。



パナソニック
「ものづくり企業の役割」



岐阜信用金庫
「お金の運用」について



押し花インストラクター
「押し花はがき作り」



左官業 「左官体験」



消防士 「価値ある無駄」



自衛官 「自衛官の仕事」



中日新聞社「新聞記者の仕事」



競輪選手「競輪選手の仕事」

～プログラム一覧～

職業	講座名
元警察官	正しい勇氣
左官業	左官
押し花インストラクター	押し花はがき作り
株式会社 プロスパー	プラスチック製品のものづくり
フィットネスアドバイザー	ダンス HIP HOP
競輪選手	競輪選手の仕事
消防士	価値ある無駄
山川醸造	醤油を主役に!
自衛官	防衛省 自衛隊
岐阜信用金庫	「お金の運用」について
金融広報アドバイザー	大人になってから困らないお金の基本
Panasonic	ものづくり企業の役割と企業の「役割」
岐阜地方検察庁検事	検察官の仕事と裁判員制度
税理士	税理士はどんな職業か?
岐阜新聞広報センター長	記者の仕事
弁護士	体験! 刑事裁判!!
新聞関係 (中日新聞岐阜支社)	新聞記者の仕事
歯科医	歯科医の仕事

**18教室で多彩な
職業の講師が
出前授業を実施**

全国で、地域や企業と連携した土曜日の教育活動が展開。「土曜ならではの」プログラムで、子供たちの豊かな学びを応援

[コミュニティ・スクールと公民館型のネットワークを連携させた事例]

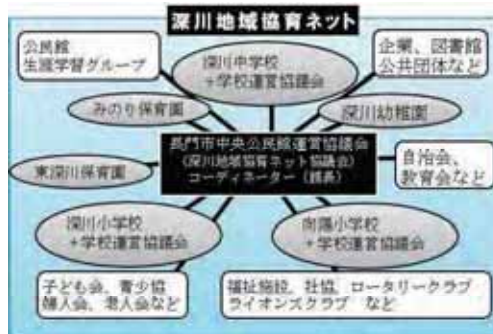
地域総がかりで子供たちを育てる地域協育ネット

山口県^{ながと}長門市／^{ふかわ}深川中学校区深川地域協育ネット

■ 活動の目的・概要

地域の多くの方が「つどい」「まなぶ」公民館には、生涯学習の拠点としてだけでなく、地域づくりの拠点としての役割が求められています。地域総がかりで子供を育てるときには、公民館に集う生涯学習グループや社会教育関係各種団体等は大きな力になります。

そこで、長門市では公民館の既存の組織を協議会として、公民館がコーディネーター役を担うかたちの「地域協育ネット」に取り組んでいます。



■ 活動の特徴・工夫

公民館型の「地域協育ネット」は、地域づくりの活動へとつながっているという意識の下に取り組んでいます。また、各学校の既存の学校支援ネットワークと公民館がもっているネットワークをつなげることにより、小・中学校における教育活動支援について、今まで以上に多様な活動を企画し、効果的な支援を行っています。

○学習支援

外部講師を学校の学習計画の中に位置づけ、子供たちが興味・関心をもち意欲的に学習に取り組めるように、教員は地域の方の参加による授業に積極的に取り組んでいます。授業に参加された地域の方々も、普段やっている学びが活かされたという満足感を感じられており、今後の活動の意欲づけにもつながっています。



音楽科 琴の指導



特別支援学級児童との活動



中学校で絵手紙指導



ラグビー指導

○わくわく土曜塾、わくわく子どもクラブ

公民館では、土曜日の子供の居場所づくりとして「わくわく土曜塾」を行っています。生涯学習グループや高校、各種団体と連携し、いろいろな体験活動を実施することができるのも公民館型の「地域協育ネット」のメリットです。



水辺の教室



水産高校生とかまぼこづくり



しめなわづくり



高校生との芋の苗植え

■ 立ち上げ当時

従来から、小・中学校ともに、学校支援ボランティアや外部講師による学習や地域の方々による見守り隊など、地域の「ひと・もの・こと」とかかわりを持ち、「地域総がかりで子供を育てる」という活動が随所で行われていました。そこで、それぞれ独自に進められている既存の学校支援組織や団体をはじめとし、公民館で活動している社会教育関係団体や関係諸団体を網の目のように結び、「地域協育ネット」として進めていくことにしました。

また、各学校もコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、地域の意見を取り入れ、学校・家庭・地域が目標を共有し、連携・協働して子供たちを育てていこうとする体制を作りました。

■ 展開・現在

○取組の成果

公民館に集う生涯学習グループや各種団体が学校へ出向き、子供たちと活動することが日常的に行われるようになってきました。学校も地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりを年間学習指導計画の中に位置づけ、子供たちが興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組むようにしています。また、校内にコミュニティルームを新設することで、地域の方が学校で活動できるようになってきました。

○学校と公民館の連携した取組

公民館も積極的に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と関わり、連携した活動を行っています。

深川小学校では、地域・保護者の方々に気軽に学校に足を運んでいただくために、給食レシピによる昼食会を企画しています。

また、学校運営協議会では3つのプロジェクト（安全見守り支援、学習支援、学校環境整備支援）を立ち上げ、具体的な活動についての協議を行っています。そして実働に向けて、PTAやおやじの会、家庭教育学級との連携を図り、協働による取組を行っています。

深川中学校では、生徒自身が地域貢献という立場で公民館まつり・大掃除などの行事に積極的に関わり、地域の方々との交流を深めコミュニケーション能力を育てています。



おやじの会によるホワイトボードの取付作業



公民館まつり準備作業

■ 今後の展望・課題

○課題

「地域総がかりで子供を育てる」という意識は、実践や広報活動等により地域の理解が進み、協力を得られるようになってきましたが、「子供と関わると疲れる」「高齢でなかなか出られない」などの声もあり、今後、更に若者や地域の方を巻き込む方策を考えていきたいと思っています。

○今後の取組

公民館に集う生涯学習グループや各種団体が学校へ出向き、子供たちと活動することが日常的となってきました。本地区の「地域協育ネット」は、地域づくりの一環として取り組んでいます。今後も、「地域総がかりで子供を育てる」という意識の下に、既存の活動を中心に実践を積み重ねていこうと思っています。また、子供たちと地域の方のニーズや思いを吸い上げ、新たな活動にも取り組んでいきたいと考えています。そのためには、各活動をしっかりと評価しながらプランを立て、アクションを起こしていきたいと思っています。さらに、小・中学校で連携を図りながら、子供たちが地域貢献する活動へと発展させていきたいと考えています。

「次世代の学校・地域」創生プラン

～中教審3答申の実現に向けて～

平成28年1月25日
文部科学大臣決定

答申③←教育再生実行会議第7次提言

教員改革 (⇒資質向上)

養成・採用・研修を通じた
不断の資質向上

現職研修改革

- ベテラン段階
・管理職研修の充実
・マネジメント力強化
- 中堅段階
・ミドルリーダー育成
・免許更新講習の充実
- 1～数年目
・チーム研修等の実施
・英語・ICT等の課題へ対応

採用段階の改革

- 採用段階
・採用試験の共同作成
・特別免許状の活用

養成段階の改革

- 養成段階
・インターンシップの導入
学校現場や教職を早期に体験
・教職課程の質向上

教員育成指標

育成指標策定指針

←都道府県が策定

←国が大綱的に提示

要・法改正：免許法、教員センター法、教特法

答申②←教育再生実行会議第7次提言

学校の組織運営改革 (⇒チーム学校)

校長の
リーダーシップの下
下学校を運営

校長

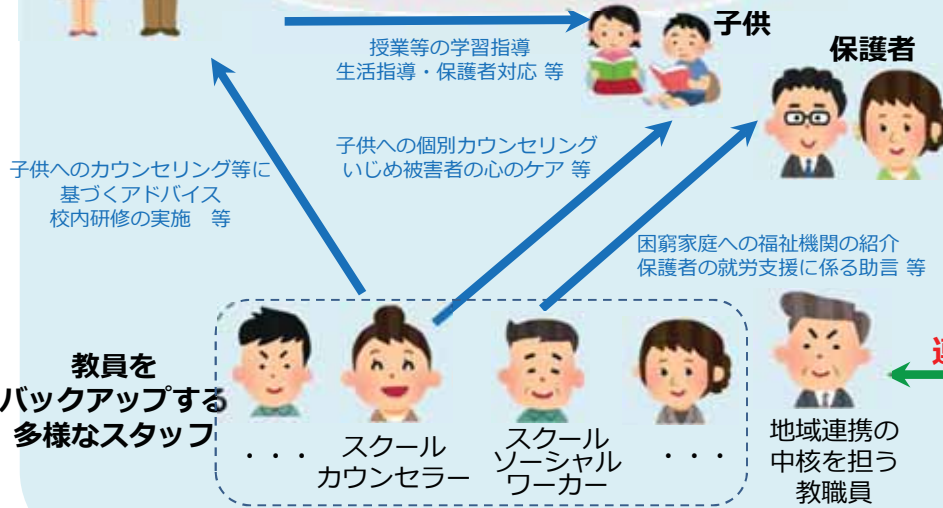
- ・学校運営の基本方針
・学校運営や教育活動 等

予算の執行管理、情報管理等により
校長のマネジメントを支える
※共同実施により学校の事務を効率化

教員

事務職員

社会に開かれた教育課程
よりよい社会を作るという目標のもと
教育課程を介して地域社会とつながる学校

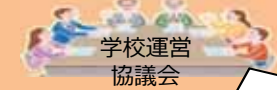


要・法改正：学校教育法、地方教育行政法

答申①←教育再生実行会議第6次提言

地域からの学校改革・地域創生 (⇒地域と学校の連携・協働)

コミュニティ・スクール



- ・校長のリーダーシップを応援
・地域のニーズに応える学校づくり

要・法改正：地方教育行政法

地域学校協働本部



保護者・地域住民・企業・NPO 等

地域の人々が学校と連携・協働して、
子供の成長を支え、地域を創生

学校を核とした地域の創生
次代の郷土をつくる人材の育成、まちづくり

連携・協働

地域コーディネーター

「地域学校協働活動」の推進

- ・郷土学習・地域行事・学びによるまちづくり
・放課後子供教室・家庭教育支援活動 等

要・法改正：社会教育法

「次世代の学校」の創生に必要な不可欠な教職員定数の戦略的充実

子供たちが自立して活躍する「一億総活躍社会」「地方創生」の実現

おやじの会『パワーズ』を通じた、父親の教育現場参画の意義



川崎市

川崎市立神原小学校PTA
パワーズ父の会代表 ● 野々山 二郎

はじめに

PTAというと、母親主導というイメージが未だに根強い。それは我々の小学生時代の体験として、父親が小学校のイベント活動に参加している印象が少なかったからである。授業参観に参加する親といえは母親の方であったし、運動会に来る父親は知り合いがおります母親同士のみが会話し、父親達は自身の狭い思いをしたであろう。ただ、昨今の小学校では父兄参観が開催され父親が積極的に小学校の場に登場しているとともに、小学校にて保護者主催で成功しているイベントを詳しく調べてみると、父親が主体となって企画・運営を行っている状況が目につく。

そして、その多くは各小学校の父親たちの集まりである、おやじの会が主催となっている。インターネットで「おやじの会」と検索すると200万件以上ヒットする事実からも、その影響力は明らかである。

本稿では、筆者が代表を務める川崎市立神原小学校のおやじの会「パワーズ」の活動を例に、父親が教育現場に参画することが如何に大切かを論じたい。

まず、神原小学校のおやじの会である「パワーズ」について簡単に紹介する。「パワーズ」は、2007年に当時の教頭である屋野先生からの熱意に押され、当時の斉藤淳PTA会長の元、全校の保護者に募集をかけて賛同した15名のメンバーから発足し、その活動をスタートした。

発足初年度は会の名称・連絡方法の決定など、まずは概要を形作り、互いの親睦を深めることに努めた。二年目からは運動会の手伝いを担い、青いTシャツを着た父親が準備・警備・片付けのサポートをすることで、多くの保護者にも認知される存在となった。

『パワーズ』のトレードマークは、この青いパワーズTシャツ【写真1】であり、子どもが卒業するとその父親にはパワーズOBとして黒いパワーズTシャツを贈呈し、ブラックパワーズとし



【写真1】



【写真2】

て以後も継続してパワーズ活動に関われる体制としている。

『パワーズ』のメンバーは、実に多様な父親たちが集まって構成されている。人数からするとブラックパワーズも含めると約70名、そのうち現役メンバーは約30名で活動している【写真3】。現役メンバーは上は50代から下は20代まで、幅広い年齢層が参加しており、神原小学校卒業の一期生もメンバーとして在籍している。

この結果、母親からの口コミだけに頼らず、父親発信の地元の情報が素早く連携され、イベント企画としては若手の積極性と年の功から生まれる保守性を融合した斬新な発想が生まれていく。

また、PTA会長、副会長もメンバーとして参画しているため、学校情報・イベント情報もすばやく連携できている。それぞれの父親の職業も大工、パティシエ、金融、IT関係といった多岐に渡る専門性を有することから、各々の得意分野のスキルを各パワーズのイベントにて如何なく発揮し、密度の高いイベントを作り上げることが可能な組織となっている。

主な活動内容

次に、『パワーズ』の活動から、地域社会への貢献ができていく具体的な事例を紹介する。『パワーズ』の主な活動は以下のとおり。

【パワーズ年間活動計画（抜粋）】

- 4月 総会・右京祭出席
- 5月 運動会手伝い
- 6月 海防祭参加
- 7月 パワーズキャンプ
- 10月 パワー出版
- 11月 すすきよ祭出席
- 3月 総会

『パワーズ』の活動として最も成功しているイベントは、毎年7月に開催しているパワーズキャンプである。パワーズキャンプは2008年から開催され、今年7回目を迎えたが、年々参加人数が増加しており現在は約350名~400名が参加する一大イベントとなっている【写真4】。このキャンプは神原小学校を舞台にして『パワーズ』が主催する防災イベントであり、地震・洪水・台風といった迫り来る自然災害のリスクが発生した場合の被災対策を意識したイベントとなっている。『パワーズ』の父親達は2カ月前から企画を立ち上げ、各イベントの担当に分かれて企画を検討し、昨今の様々なコミュニケーションツールを活用して普段の仕事以外の短い時間を有効活用しつつ、当日まで

神原小学校PTA	地域の紹介	川崎市の北西部にあり、宮前区内の北部に位置し、多摩区、麻生区、横浜市の青葉区に隣接している。かつて、雑木林の間に田畑が点在するのどかな農村地帯が、昭和30年代半ばから都市化の波が押し寄せて宅地造成が急ピッチで進み、住宅地に変化した。今なお自然に囲まれた緑豊かな環境である。
	学校の紹介	神原小学校は、養生小学校から分かれ、1988年（昭和61）4月に開校し、平成27年に30周年を迎える。川崎市立小学校の110校目の学校である。市営バス「神原小学校前」で降りると、目の前に「ふれあいの森」で囲まれ、川崎市でも最大級の広さを誇る校庭を擁した、大きな社会を垣間見ることができている。
	PTAの紹介	親生、賛助PTAの役員は男性3人、女性6人で運営している。各委員、学年、パワーズ、ママさんバレー、小学校教育会などの役割分担を明確にして活動している。学校側とはなるべく多くの対話をし、方針、方向性を確認しながらお互い協力をしあい進歩するように努めている。男性は「パワーズ」に参画して子供に教える共創ができる用になっている。



【写真3】



【写真4】



【写真7】



【写真8】



【写真5】



【写真6】



【写真9】



【写真10】

準備を行っている。

パワーズキャンプで特質すべきは、保護者・学校・地域の三者すべてを連携したイベントが実行できている点にある。

例えば、当企画のイベントとして「先生と遊ぼう」という企画がある。普段、子どもたちは学年・クラスの単位を主に小学校生活を送っているが、この日はやはり保護者を含めた参加者一体となるレクリエーションを実施することで、様々な学年の先生方と、子ども・保護者の距離感を縮める一助となっている【写真4】。

また、パワーズキャンプでは炊き出し・避難所体験といった企画がある。これは地域の避難場所として指定されている神原小学校を利用し、宿泊を通じて集団での避難所生活を保護者・子どもにも体験して貰うための企画である。この企画を通じて、炊き出しでは地域保護者間の連携が深まり【写真5】、宿泊時は共通空間でのプライバシー確保の難しさを身を持って体験いただき、被災時には通常時以上に地域連携が大切であることを実感いただけている。

その他にも、プールでの防災カルタ【写真6】や、地元の消防団（宮前消防署）に協力いただいた起震車・消防車体験【写真7、8】、消火器訓練、煙体験、簡易担架作成といった複数のイベントを通じ、防災そのものについても楽しみながら体験できるように企画を検討している。

4月、11月には、地域のNPO法人である「あかい屋根」と連携し、若葉祭や手つなぎ祭といった地域コミュニティのお祭り【写真9、10】に参画している。「あかい屋根」には神原小学校だけでなく、近隣の養生小学校や白幡台小学校など広い地域から子どもたちが集まるため、神原学区内外で『パワーズ』の名前と活動を知っていただき、地域と子どもとの連携を深め、より広範囲の地域に貢献するよい機会をいただいている。

おわりに

以上のとおり、『パワーズ』という団体を通して同じ小学校の父親たちが集まり、世代を超えて親睦を深め合いながら1年を通して様々なイベントを仕掛けることで、神原小学校の学区は、父親同士の連携のみならず、保護者・学校・地域の三者を活性化させる相乗効果を生み出すことに成功している。神原小学校おやじの会『パワーズ』は、今後も父親のパワーを如何なく発揮し、学区内外の活性化の一助となるよう活動していきたい所存である。

尚、最後に本稿執筆に伴い、現神原小学校PTA会長田島良一氏、副会長田中司氏、及び元PTA会長であり前宮前区PTA協議会会長である斉藤淳氏には大変お世話になった。この場を借りてお礼を申し上げたい。

事例 27 小松小学校「おやじ部」の活動紹介

～がんばるおやじの背中を見せつける～

愛媛県西条市立小松小学校PTA

- PTA** ・PTA会員数241名。総務部、地区生活部、文化教養部、人権学習部、学級保健部、おやじ部で構成されており、子どもたちに「よさがわかる子」「共に伸びる子」「地域で育つ子」になってもらおうと、一丸となって活動しています。
- 学校** ・平成27年度で創立142年を迎え、男子児童158名、女子児童169名、合計327名で、「伊予聖人」とも尊称された近藤篤山の教えのもと、学校の教育目標「きらり いきいき 小松の子」を目標に、元気いっぱい勉強に運動に励んでいます。
- 地域** ・西条市は、愛媛県の東部、道前平野が広がる地域に位置しており、北は瀬戸内海に面し、南は西日本最高峰の石鎚山を中心とする石鎚連峰を背にし、瀬戸内海地方特有の温暖な気候に恵まれています。また、四国一の経営耕地面積と四国有数の製造品出荷額等を誇り、農業と工業がバランスよく発展しているまちです。

はじめに

小松小学校のPTA組織には、総務部会と5つの専門部があり、そのうちの一つに「おやじ部」があります。他の小・中学校にも、「おやじ部」や「おやじの会」はあると思いますが、学校PTA組織の正式な専門部に位置づけされているところは少ないと聞いています。この「おやじ部」も昔からあるわけではないのです。平成16年に、たった1人の部員からスタートしました。

それまでは、例年、次年度のPTAの役員を選ぶ際には、それぞれの自治会からPTA役員候補者が提出されることになっていました。しかしながら、その候補者といえば女性ばかりでした。PTAのお母さんたちから、お父さんたちにもぜひともPTA運営に参画してほしいとの要望も出ていましたが、なかなか男性がPTA役員に出てくるということはありませんでした。けれども、お父さんたちは、仕事が忙しくて、子どもとふれあう時間がないけれど、本当は子どものことが大好きで、何かしてやりたいと思うとともに、お父さんたちの横のつながりがほしいけれども、そのネットワークがないという状況は、どこの学校でもあることだと思われまます。

そこで、子どもたちの健全育成のため、教育環境や地域環境の向上のため、そして何より親子のふれあいがほしいという思いのもと、1人の部員から始まりました。勤

誘の日々が続き、その考えに賛同するお父さん約20人で「おやじ部」の活動をスタートさせました。現在、部員数は30人。部長1人、副部長3人を任命し、おやじ部担当として教職員も5人つき、ほぼ毎月、PTAの役員会の後、おやじ部会が開催されています。

1. 活動のモットー

「おやじ部」の活動は、「子どもが楽しむ」「親も楽しむ」「親子で楽しむ」をモットーとして活動しています。1つ目の「子どもが楽しむ」は、イベント等を行うのには、当然に押さえておかなければならないことです。2つ目の「親も楽しむ」、小松小学校「おやじ部」としては、このモットーを重視しています。いくら子どもたちが楽しんでもらえるイベントを行っても、おやじ部員から、「しんどい」「もう来年はしたくない」などの声が出るようなことでは、継続的にイベントを続けていくことは不可能です。「子どもが楽しむ」「親も楽しむ」この2つができれば、必然的に「親子で楽しむ」ができて、「おやじ部」の立ち上げの理由でもある、親子のふれあいにつながっていくと考えています。

2. 活動内容

「おやじ部」では、毎年、春夏秋冬に最低1つのイベントを行うようにしています。

春には、「親子ふれあいしまなみウォーク」と題して、しまなみ海道の最も四国よりの「来島海峡大橋」を親子で歩いて渡るイベントを行います。参加人数は年々増えており、平成27年は140人の参加がありました。なかにはベビーカーを押して参加している方もいました。今年度からは、同じ中学校区にある石根小学校も合同で参加してもらえるようになり、各学校間での交流も行えました。

夏休みには、「おやじの夜市」を最終土曜日の夜に小学校で行っています。2カ月前から、資材調達などの準備をし、おやじ部員のほとんどが参加する最大のイベントといっても過言ではありません。フライドポテト・かき氷・スーパーボールすくい等



「親子ふれあいしまなみウォーク」



「おやじの夜市」

いろいろな屋をおやじ部員や先生が行います。このイベントによる収益がPTAの特別会計の収入となり、児童活動費に補填したり、市の予算では購入できない備品などを購入したりしてもらうため、そして、なにより子どもたちのため、おやじ部員も張り切った的屋になります。

次に、「通学合宿」です。4年生以上の希望者で公民館を3日間お借りし、寝泊りして学校に通うイベントです。学校行事であり、子どもたちが自分のことは自分で行うこととしているのですが、公民館からのお風呂の送迎や、見守りのための宿泊、朝食・夕食の手伝い、夜のお楽しみイベント等を、「おやじ部」の活動として行っています。この「通学合宿」には、公民館の方、地元の婦人会の方、地元の方等、たくさんの方が関わってくださり、子どもたちにも、地元の人との関わりの大切さを感じてもらっています。

冬には、「親子ふれあいもちつき大会」を行っています。今や家庭ではあまり見かけなくなったもちつきを、おやじ部員と「おやじ部」OBが持っている貴重な臼と杵を借り受けて、おやじ部員と子どもたちでもちつきを行います。館を入れたり、まるめたりするには、地元の婦会にもご協力をお願いしています。

そのほかにも、商工会主催の各種イベントのお手伝いや学校美化清掃、中学校の運動会・文化祭のお手伝いなど積極的に活動を行っています。



「親子ふれあいもちつき大会」

3. 今後の活動について

全国的な少子化の状態により、PTA世帯の数もどんどん減ってきています。当然「おやじ部」に参加してくれる親の数も少なくなってきています。このような人数不足を補うため、平成26年度から、小松中学校区にある学校、小松中学校、石根小学校、小松小学校の「おやじ部」で「小松おやじ連合」を結成して、合同でイベントを行ったり、各学校のイベントをお互いで手伝ったりしています。これには、各学校の教職員にも理解をいただいています。先に紹介した「親子ふれあいしまなみウォーク」を小松小学校、石根小学校合同で開催したり、小学校の運動会に、中学校の「おやじ部」が手伝いにきてくれたり、中学校の文化祭、運動会に小学校の「おやじ部」が手伝いに行ったりするなど、お互い助け合うことで、イベントの人数不足を補うことやイベント等の運営が楽になり、自分の子どもたちとふれあう時間を多く作ることができます。また、違う学校の親同士、子ども同士の交流も図られていくことも望んでいます。「小松おやじ連合」での活動は始まったばかりですが、今後も各学校で協力し合い、子どもたちのためにイベント等をなくすことなく続けていきたいと思っています。

おわりに

昔から「子どもは親の背中を見て育つ」と言われています。言葉で伝えるのではなく、がんばるおやじの姿を見せつけば、子どもたちも「自分もがんばってみようかな」と考えてもらえると思っています。

そして、イベント等を通じて、地域の子もたちみんなと顔見知りになり、子どもたちから気軽に声をかけてもらえる、また、子どもたちが悪いことをしていたら注意できる、そんな関係でいられるおやじ部員が理想だと思っています。自分たちを育ててくれた地域の歴史と良き伝統を守り、受け継ぎながら、子どもたちに少しでも伝えていければと思い活動を行っています。



「通学合宿」